

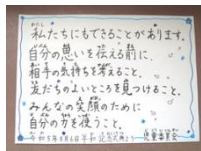
令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市小学校	校長	中谷 一志	生徒指導主事	向井 千代子
取組事例名	『みんなの笑顔のために自分の力を使おう』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
今年度、学校教育目標を「自ら学び ともに伸びる」とし、「自立・協働・挑戦」を目指した教育活動を行っている。昨今、児童から「学校が楽しくない」という言葉を聞くことが多くなったが、楽しい学校にするために自ら動くことは少なく、人任せにした上での不満を口に出している児童がほとんどである。そのため、児童自らが考えて行動することにより、学校は楽しくなることを実感させ、学校生活をよりよくするための力を児童に養うことをねらいとして取組を設定した。	○自己実現 友だちやクラスみんなのために自分でできることを考えて活動する。【自立】【挑戦】 ○人間関係形成 友だちや自分のよさに気づくとともに、友だちの笑顔のために協力して活動する。【協働】 ○社会参画 「クラスや学校は自分たちの力でよりよくできる」と気づき、クラスや学校のために自主的に活動する。【挑戦】

2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
○ 9月上旬 - 児童委員会に『平和への誓い』を提示 - 児童委員会がポスターを書き、全校児童に「みんなの笑顔のために自分の力を使いましょう」と呼びかけた。  ○ 10月～11月 - 児童委員会が、みんなの笑顔のためにできることとして、『いじめゼロをめざそう 廿小にこにこじゃんけん大会』の企画・運営。  ○ 11月～12月 - 生活目標「クラスのみんなの笑顔のためにできることを考えよう」 児童1人1人が自分にできることを考えて、カードに書き、それぞれが実行した。  ○ 12月～1月 - 児童委員会が『いじめゼロをめざそう 廿小にこにこじゃんけん大会』の振り返りをもとに、全校児童のリクエストに応え、『いじめゼロをめざそう 第2回 廿小にこにこじゃんけん大会』の準備・運営。 ○ 1月～3月 - 生活目標「学校をよりよくするためにできることは何だろう」 各クラスで、学校をよりよくするためにできることは何かを考えて、計画・実行。	児童にめあてをもたせるために - 広島平和記念式典『平和への誓い』を児童委員会に提示し、「廿日市小学校でもできることはないか」と投げかけた。 - 児童委員会が、その1節を引用したものを画用紙に書いて全クラスに配布し、「自分の思いを伝える前に相手の気持ちを考えること」「友だちのいいところを見つけること」「みんなの笑顔のために自分の力を使うこと」を呼びかけた。 児童の意欲を高めるために - 全校児童に呼びかけを行った児童委員会自らが、みんなが楽しめる会の企画・運営を行った。 2学期後半の生活目標を例年とは変えて、各個人が、クラスの笑顔のためにできることを考えて実行できるものとした。 3学期は、学校全体を見つめ、問題点の改善や感謝を伝える取組を学級単位で考えさせ、クラスで協力して取り組ませた。 児童の頑張りを認め、価値付けるために - 個人の取組や学級の取組は、カードに書いたり掲示板に貼ったりするなど見える化し、それに対する評価もシールやメッセージカードを活用して行った。

3 成果と課題

- 児童委員会がポスターや放送で、全校児童に「みんなの笑顔のために自分の力を使いましょう」と呼びかけたことにより、児童主体の活動となった。 - まずは児童委員会自らが、みんなの笑顔のための『じゃんけん大会』を企画・運営し、その後に個人の活動→クラスの活動としたことにより、活動の幅が広がるとともに児童の意欲を継続することができた。 - 全校児童アンケートで「学校は楽しい」と回答した児童が、「7月…89.6%→12月…90.8%」となった。しかし、「クラスやみんなの役に立っている」と回答した児童は、「7月…81.8%→80.3%」であり、評価における工夫が必要である。
